

下顔面部の硬軟組織形態の相互関係および加齢変化

・はじめに

歯科矯正治療において、咬み合わせと審美性の改善は両者とも治療の目標となります。とりわけ唇の形や位置は審美性と大きくかかわっており、矯正治療において配慮すべき重要な要素です。そして、その形態は直下にある前歯や顎の骨と強い関連性があると言われていています。また、年齢とともに唇や口腔内の軟組織は萎縮して薄くなると言われています。しかし、横顔の形態変化の要因と考えられる前歯や顎の骨などの変化、および加齢に伴う唇の形態の変化については明確にされていません。以上より、これらの相互関係や加齢に伴う変化について明らかにすることは、矯正治療において、審美的、機能的に良好な状態を想定するための治療計画の立案や、長期的な予後の評価を行うためにも重要であると考えられます。

・対象

1986年7月24日から2009年4月6日までに、九州大学病院矯正歯科に来院され、側面頭部エックス線規格写真を撮影された患者さんの御両親のなかより、個性正常咬合を有すると判断された、日本人成人女性（30歳から50歳）50名程度と、九州大学病院で研修を行っていた歯科衛生士実習生で、当教室にて行っておりました筋ジストロフィー患者の研究の一環として、当教室において1990年4月1日から1991年3月31日までに側面頭部エックス線規格写真を撮影された個性正常咬合を有する日本人成人女性ボランティア（20歳から21歳）10名程度の側面頭部エックス線規格写真画像を対象とさせていただきます。

・研究内容

側面頭部エックス線規格写真画像を使って、前歯や顎の骨、唇の形態などについて調べ、これらの相互関係や年齢とともにどう変化するのか考察します。

・個人情報の管理について

個人情報は匿名化し、本研究の実施過程およびその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成29年3月31日まで

- 医学上の貢献

歯科矯正治療において、審美的、機能的に良好な状態を得るための治療計画を立てることや、長期的な予後の評価を行うための一助となり、多くの患者さんにとって満足となる治療結果を得るために重要であると考えます。

- 研究機関

九州大学院 歯学研究院 歯科矯正学分野

教授 高橋 一郎

九州大学病院 歯病 矯正歯科

講師 五百井 秀樹

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

Tel 092-642-6462

連絡先担当者：五百井 秀樹